

※いただいた御意見の内容は以下のとおりです。

委員	御意見
野村部会長	<p>パブリックコメントに対する「市の考え方」で、「関係課で情報共有」や「関係機関と共有」というような回答がある。これだけでは「ただ伝える」という感じに思えるので、もう少し具体的な共有方法もしくは横断会議の開催するなど、可能なら検討していただきたい。</p> <p>パブリックコメントでいただいたご意見には、調査や観察会等の啓蒙活動の必要性を言っておられる方が多いように感じた。ホットポイントになっている地域等で、生物多様性の重要性を伝える講義と観察会等が開ければ良いと思う。いくつかの場所では、実際行われているはずなので、それを一覧にして、PRすれば、今後の保全活動の活性化につながるのではないかと。また生物部会が主催する形で、部会長と副部会長など委員の方々が講師として講演会等を行ってもいいのではないかと。</p>
相澤副部会長	<p>【生きもの多様性に対する理解の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森の役割について、非常にすぐれたコメントをいただいたと思う。 ・ 現在はP5に生態系サービスの話があるが、抽象的な表現なため、一般の方にはわかりにくいと思う。 ・ 下記の（一社）日本建設業連合会の資料の2ページ目「グリーンインフラに期待される機能や仕組みの例」という図がとてもわかりやすく説明されている。 https://www.nikkenren.com/publication/pdf.php?id=311&fi=685&pdf=green_infra.pdf <p>可能であれば、P5の周辺かグリーンインフラのコラムの近くなどに挿入できないか検討してほしい。</p> <p>【学習拠点の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの審議で、「施策を絞るべき」と主張してきたが、「実践モデル地区」をつくるという案にとっても感心した。 ・ P66の 施策3-1.2に「実践モデル地区の制定の検討」といった項目を追加することはできないか。 <p>【自然環境調査の手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の考え方の2段落目で「次回の調査では、生息が確認された生きもの生息状況の経年変化を・・・（中略）」とあるが、10年に一度の調査ではなかなか経年変化を追うことはできない。 ・ 「生息が確認された生きもの生息状況の経年変化を追えるようなモニタリングシステムの構築を検討していきます。」といった回答の方が良いのではないかと。 <p>【生活排水対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨時に雨水が雨水管から下水道に流入し、下水道があふれて水質汚染を起こす問題の緩和策のひとつとして、雨庭（地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間のこと）、バイオスウェル（雨水浸透施設と緑化帯を一体化したもの）などのグリーンインフラの導入に注目が集まっている。 ・ 審議の初期の話では、グリーンインフラを活用して問題解決を図っていくこともひとつの議題として取り上げられていたと思う。 ・ P44の河川と流域の連続性の確保（保水と流量の確保）などの施策はこれに通じるものがある。 ・ P17「柏市における生きもの多様性の現状と課題」に「（グリーンインフラの活用を含む）雨水涵養を促進することで、これらの問題の緩和に取り組む必要があります」といった文言を加えることは可能か。 ・ また、P44「河川、湖沼の保全」にもグリーンインフラの活用も含めた文意に修正することは可能か。 <p>【緑地保全・緑化推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体のひとつの課で対応するには大きすぎる問題が多く回答が難しいとは思いますが、市民の関心も高い内容かと思しますので、より丁寧に答える必要があるのではないかと。 ・ 里山管理の担い手不足などの問題は、予算も限られる中で十分な援助ができていない部分も多いだろうが、今後もボランティア団体はじめ、市民の方々と密に連携を図りながら解決していくべきではないかと。 ・ 「私有地の森の保全や税制などの問題は柏市だけで解決できない非常に難しい問題ですが、関係部署と情報を共有し」といったように、現状の課題をしっかりと認識しているというアピールをした方が良いと思う。現状の回答では具体性に欠ける部分があるので、より責任を明確にした回答を望む ・ 税制について、公園緑地課ではこんなことも取り組んでいる（新たな緑地保全手法について、特別緑地保全地区と地上権設定の組み合わせによる土地評価）。P55公共緑地・空間における維持管理でこの内容を紹介するのも良いのではないかと。

	<p>【維持管理の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物によっては草刈2回よりも3回の方が良い環境となる場合がある。 ・堤防上の植物の中には、定期的に草刈りが行われることで、今日まで生きながらえてきた希少種も含まれている。
井ノ崎委員	<p>P33に柏ホテルの会が活動している増尾の森について記載があるが、P53のホットポイントの中には記載がない。</p> <p>保全活動を始めて18年程になり、その間観察会を開き、観察者数が6日間で4,500人に達するときもあった。</p> <p>古い資料を見ると「葛が谷」と命名されていたこともあるようだが、「増尾の森」としてキンランの群生が更に広がるよう、ホテルもこれまで以上に多く皆様にお見せ出きるよう活動している。時々、場所は何処かと問い合わせがあるが、「増尾の森」を地図に載せてもらえないか。</p>
川瀬委員	<p>P47 施策1-1.3「谷津、湧水池の保全と再生」で、谷津の湧水だけではなく柏市内全域で代表的な湧水が街なかにも多く存在する。（松ヶ崎、寺谷ツ、宿連寺、四季の丘、増尾など）写真とともに街なかの湧水保全の事も記載してもらいたい。※必要であれば、湧水地の画像データを提供する。</p>
	<p>P56 施策1-2.2「開発行為における生きものへの配慮」で、パブリックコメントでも、開発行為による緑地の喪失や減少を大変心配されている意見が多いと感じた。</p> <p>条例等に基づく開発事業者との事前協議…とありますが、現状では開発業者が開発行為の際の「生きものへの配慮」に関する事で協議を行う義務は無く、市役所が何らかの形で開発前に事前に情報を得たものや、よほど関心の高い事業者が事前協議に来る場合に限られる。また、生息域喪失では移植などの検討とあるが、移植は成功しない場合も多く、ここで書いてしまうのは心配。</p> <p>今後作成予定の「重要な緑地減少に対する対策ガイドライン（仮称）」では、特にホットポイントでの開発行為抑制は明記されることと、重要な緑地だけではなく、一定の面積以上の緑地を開発する場合でも対象にすることとしてもらいたい。</p>
	<p>P62 施策2-1.3「生きもの多様性の実態把握・調査」パブコメの意見でも出ていたように、生物調査を行う市民等の人材の確保育成、スキルアップなどにも努める、としてもらいたい。</p>
半沢委員	<p>パブリックコメントには重要かつ具体的な提案が多々あると思う。これをきちんとすくい上げ、柏市生きもの多様性プランを実現するにあたり、着実に生かせるようにしていただきたい。</p>
	<p>かしわ環境ステーションの活動や機能に対する期待や希望が多かったことが印象的だった。実際、拠点地を有し、行政と市民が協働できる仕組みが既存していることは大きな強みだと思う。かしわ環境ステーションがより効果的に機能するよう、強化する必要がある。</p>
星委員	<p>【学習拠点の整備】</p> <p>若い世代市民だけではなく、高齢化が進んでいくため、高齢者の方にも「柏市生きもの多様性プラン」を知ってもらう機会と場所を提供することを考えることが大事だと思う。</p> <p>コロナ禍となり、高齢者の方は外出を控えてばかりもいられないとのことで、畑の土地を借りて自家栽培する方々が急増しているようだ。（自分の両親も、老後のことを考え、畑を借りて野菜を育てている。）</p> <p>柏市でも、畑の土地を市民に貸すような取り組みを行えば、畑から「柏市生きもの多様性」に興味を持ち、そこから何か提供できることも生まれるように思う。</p> <p>【追加意見】</p> <p><生きものや自然に親しめるイベントの積極的な実施></p> <p>生きものや自然を身近に感じることで市民を増やしていくため、上記と重なるところもあるが、農業体験の実施等のイベントづくりも大切ではないか。</p>
松清委員	<p>プラン（案）とパブリックコメントそれぞれの内容については特に意見はないが、パブリックコメントの参照数及び寄せられた意見を見る限り、かしわ環境ステーションの関係者等に限られており、個人的にSNSで発信するなどを試みてみたものの反応は薄く、一般市民の関心が極めて低い結果となったことが残念。</p> <p>柏市のパブリックコメント全般に言えることだが、特に柏市生きもの多様性プランのような市民の取り組みに期待する部分が多い計画に関しては、パブリックコメント等で意見を求めることも周知・啓発活動の一環として、柏市生きもの多様性プラン案の説明会や、プランを題材にしたワークショップのようなイベントを合わせて行うことが必要と感じた。かしわ環境ステーションが担うべきなのかもしれないが、今後は、そのようなことも計画改訂スケジュールに入れてもらいたい。</p> <p>広報部を新設して市民への情報発信にこれまで以上に取り組むとのことだが、このような全市民的に取り組むべき地域課題の共有にも力を入れていただきたい。</p>